

ロンドンのヒースローより、おはようございます。ここイギリスで、4日間素晴らしいミニストリーの機会をいただいて、これからイスラエルの自宅にもどります。かつて福音が語られ、素晴らしい伝道師たちがいて、世界中に福音を輸出していたこの場所に、神が、人々を残しておいてくださったことに感動しました。また、イスラエル擁護派もおり、ちょうど100年前に出されたバルフォア宣言（書記注：第一次世界大戦中の1917年11月2日に、イギリスのバルフォア外務大臣が、イギリスのユダヤ系貴族議員であったライオネル・ウォルター・ロスチャイルドに対して送った書簡で表明された、イギリス政府によるシオニズム支持表明）は、イスラエル国家の合法建国の基盤となり、後の1920年には、サン・レモ会議（第一次大戦後の問題について協議された連合国の会議）で採択されました。イギリスには、クリスチャンの伝統が維持された、たくさんの素晴らしいことがあります。しかし、イギリスで3つの事が起こりました。ちなみにその3つとは、旧約聖書の中で、イスラエル国家に起こった事で、そのことが実際にイスラエルを破綻へと導きました。まず第一に、過去70年間、イギリスには大きな戦争や大きな危機がありませんでした。そのため、物事が順調で落ち着いており、人々は少し安心しきっていて、無関心になっています。もちろん、イギリスは繁栄し始めて、経済的にも大国です。全てが容易で、特に問題もなく、全てが順調に行っているとき、多くの場合、人々は神を排除してしまいます。それが過去のイスラエルに起こった事であり、イギリスでも起こりました。そして、神を排除した後に、一般的に何が起こるかといえば、他の神々を招き入れるのです。私がここにいる間に目撃したモスクや、ヒンドゥーの社や、仏教の寺は数えきれないほどでした。神を必要とせず、排除し、他の神々を招き入れる——これは破滅のパターンです。しかし、私たちが覚えておくべきは、神が旧約の時代にもそうされたように、常に「レムナント＝残りの者」を残しておかれます。預言者エリヤでさえ、自分一人だけが残されると完全に思い込んでいました。神を礼拝する者は、他には一人もいない、と（第一列王記19:10）。しかし神は、エリヤに言われたのです。

18 **しかし、わたしはイスラエルの中に七千人を残しておく。これらの者はみな、バアルにひざをかかめず、バアルに口づけしなかった者である。**

（第一列王記19:18）

私は今回の滞在中に、このような残された人達を見て、とても励まされました。セッジリーとミッドランドでの集会は素晴らしいものでした。この半日の集会で、私は三回講演をしましたが、地元の学校の小さな講堂が、300人以上の人で満員になりました。それは本当に素晴らしく、特に賛美は天国にいるようでした。私は賛美がずっと続いてほしいと思ったほどです。それから日曜日（9/3）は、教会で2回説教をして、昨日の月曜日（9/4）にはロンドン近郊のマーローという所で講演をしました。通常は50~80人ほどが集まるイベントに、220人以上の方が集まりました。「世界で、実際には一体何が起きているのだろうか？」と皆が知りたいと思っています。神のみことばには、どう書いてあるのか？フェイスブックにではなく、ユーチューブにでもなく、偽教師でもなく、こんにち、私たちが抱えている膨大な問題について、神の御言葉は何と言っているのか？と。

皆さんのお祈りとご支援に感謝します。今回のイギリス訪問によって、イギリス国内でさらに多くの場所が生まれつつあるだけでなく、他の国への訪問にもつながりました。そういうわけで、どうぞ引き続きお祈りください。以上がイギリス訪問の報告でした。たくさんの方々が祈ってくださっていたのも知っています。世界中で、何万人の方が捧げてくださった祈りを感じていました。私が海外を訪れるたびに、何かが起こります。またイギリスでも、私が行く前に、たくさんの人に凄まじい霊的戦いがあったと聞きました。これは、良い事です。私たちが正しいことを行っている時、敵は不機嫌ですから。しかし、私たちが正しいことを行っていない時には、敵は静かにしています。

次に、イスラエル北部で昨日始まった事について、簡単にアップデートしたいと思います。過去 20 年間で最大の軍事演習がイスラエル北部で開始されました。ヒズボラテロリストの侵入がイスラエルを完全に滅ぼす戦争になるのを防ぐために、それをいかに退化させ、ヒズボラを倒すかをシミュレーションしています。ではなぜ、全世界が北朝鮮に目を見張っているこの時に、イスラエルは別の事をしているのでしょうか？それは、北朝鮮の動きは、ロシア、イランで起こる事のためのある種の煙幕であると、私たちは信じているからです。前にも言いましたが、今回も言います。ロシアとイランは北朝鮮を恐れていません。彼らは味方同士だからです。そしてアメリカが今、引っ張られて物凄く手薄になっていることを、彼らは知っています。アメリカは北朝鮮のことを大変危惧しており、アメリカはリーダーシップをとる立場を見せる必要があります。断固たる、とでも言いましょか。そのため、アメリカは現在大忙しです。トランプは非常に賢く、大量の軍隊を送り込むなどの反応をせず、韓国と武器売買を成立させました。これは実に賢明な動きです。何十億ドルという額の武器の販売を承認し、一つには、これはアメリカ経済にとって非常に良いものです。もう一つに、彼は同盟国を武装させて、彼らが将来的な対立に備える援助をしています。間違っははいけません。北朝鮮の動きは全て、今に始まった事ではありません。それは、金正恩の祖父からはじまっていて、クリントン大統領が彼らの要求に譲歩しました。そして、クリントン大統領の 2 期目の終わりに、彼はマデレーン・オルブライト（アメリカ初の女性国務長官。在任期間 1997・1・23～2001・1・20）を、金正日と会談させるために送り込みました。彼らは、合意書に調印していたのですよ、皆さん！彼らは、北朝鮮の核プログラムの凍結と引き換えに、アメリカが援助することに合意、調印していたのです。ところがアメリカは、あることを発見して、衝撃を受けました。北朝鮮は核開発プログラムを停止するどころか、さらに加速させていたのです。合意書が書かれ、調印されていたとしても、彼らは全く気にも留めません。これがまさに、イスラエルがイランと関わる時に恐れることです。こういった国々は、アメリカや他のどの国とも交わした合意や、合意書への調印を、何とも思っていないのです。彼らは絶対に止めません。彼らは核兵器を製造するための働きを、一瞬たりとも止めないのです。核兵器を所有すれば、自分たちの言い分が聞き入れられ、真剣に受け止めてもらえるということを、彼らは知っているのです。それが、彼らのやり方です。今の今まで、北朝鮮に誰も対処して来なかったという事実が、イランにとっては大きな励みとなっていました。早く言えば、武器を所有すれば免責される、と彼らは感じたのです。だから、イスラエルはイランとアメリカの核協議に大反対したのです。事実、我々はアメリカに対して、何度も言ったのです。

「自分たちが北朝鮮とした事を見てください。あなたがたは、彼らと和平を結び、合意書に調印した。しかしその合意書は、何か書かれているために、紙としての価値もない。」同じ事は、イランとも起こります。勘違いしてはいけません。イランは今でも策略を企んでいます。そして彼らは、今でも自分

たちの核プログラムを発展・前進させることに、必死で力を注いでいます。そしてイランはイスラエルに対して大きな脅威となると、私は心底思っています。イスラエルは、じっと黙って路肩の傍観者でいるようなことはしない、イスラエルは応答します。現在、私たちはイラン軍がシリアに侵入しているのを目撃しています。ですからイランは、もはや遠く離れた問題ではないのです。すぐそこにいます。イランが核兵器を得て、何らかの形でそれを国境線まで運んで来るなら、イスラエルは待ちません。

2007年、北朝鮮の核プログラムに反応した国は、イスラエルだけでした。と言うと、皆さんはきっとこう言うでしょう。

「ちょっと待って。でも、北朝鮮を攻撃してませんよね？」

その通りです。しかし、北朝鮮はシリアの原子炉を発展させました。あれは全部、北朝鮮の働きで、北朝鮮の科学者、北朝鮮の技術で、全員現場に入っています。そこでイスラエルは2007年9月、シリアのデリゾール——シリアの砂漠にあった建設中の真新しい原子炉を破壊しました。シリアにあったプルトニウム原子炉です。ですから、これまでに北朝鮮の働きに対して、手を伸ばしてダメージを与えた国というのは、我々だけです。この場合は、北朝鮮国外ですが。このように、防衛に関してのイスラエルは、いかなるものであれ、相手が大量破壊兵器を獲得するまで待っていません。そして、イスラエルのその姿勢は、今後もほぼ変わらないでしょう。そして、以前にも言いましたが、それによってイザヤ書17章の成就となる確率は、かなり高いと思います。もしイスラエルがシリアにあるそのような物を破壊した場合には、ダマスカスは壊滅します。ロシアは、「今ではイランの味方である」と、態度を非常に明確にしました。彼らは経済利益のために、イスラエルよりもイランとの関係を取りました。イスラエルはロシアへのガス販売は望んでいませんし、ロシアに我々のガスと原油の利益を与えようとは思いません。イスラエルがヨーロッパまでの独自のガスパイプを所有したことで、ロシアにとっては競合となりました。また、それによってヨーロッパの、ロシアのガスと原油への依存を縮小されています。だからもし、イスラエルに何かがあったとしても、ロシアは涙を流したりはしません。現在、驚くべき事が起こっているのです。

次に、少しだけハリケーン・ハーヴィーについてお話しましょう。ハリケーン・イルマも、今、フロリダに向かっています。その途中でプエルトリコとキューバを通ります。もちろん、私たちはそこに住む人々のために祈っています。ただ、巷で出回っている全ての陰謀論、アメリカ政府が雲の中に何かを撒いて、ハリケーン・ハーヴィーを造ったとか何とか、そんなのはデタラメですよ！こういうのは、止めなければいけません。こういった陰謀論は全て、ただ敵の手に弄ばれているに過ぎません。今は、ハリケーン・ハーヴィーの季節です。そして、ハリケーンは時に破壊的になるものです。ハリケーン・ハーヴィーがテキサスを襲ったという事実は、

① アメリカの政府が、自国民を痛めつけるために起こしたものではない。

② 神が今、アメリカを裁いているという意味ではありません。

もし、ワシントンDCが壊滅すれば、その方が私には、国が行った悪、反逆のために、神が裁いておられると見えるでしょう。しかし、まだその時ではない、と私は思います。また、ハリケーンは以前にも起こりました。カトリーナ（2005年8月）もあつたし、その前にもありました。これは、私がいつも言っているローマ書8:22~24の類だと私は思います。アメリカのハリケーンシーズンには、洪水やサイクロン、モンスーンがもたらす雨、大惨事等がかなりの大規模で起こります。アジアでも、世界の他の

地域でも、そしてアメリカでも同じです。もちろん、誰もがアメリカに目を見張っています。ハリウッドがあって、メディアやエンターテインメント、政治権力でもまた、世界の注目の的なのですから。けれども、ハーヴィーで40~50人が亡くなった時に、アジアでは1,200人が亡くなっていました。全く同じ数日間にです。それについて、誰も聞いていないかも知れませんが、インドとアジアの他の地域で起こりました。報道されていないために、誰も知らないのです。でも、言っておきます。今、被造物全体が呻いているのです。どうかローマ書8章を読んでください。聖書は、これを産みの苦しみだと言っています。携拳の産みの苦しみ、聖書では、同じ箇所「体の贖い」だと書かれています。私たちは、体の贖われるのを待ち望んでいます。教会の携拳は、すぐそこまで迫っています。その次に、とてつもなく大きな試練の時がやって来て、それに続いて世界中で大惨事が起こります。救われていない人たちは、その時になると、なんとなく、このようなハリケーンを懐かしく思うでしょう。黙示録に描写されている、これから起こることを見ると、どれも比べものになりませんから。これから地球を襲おうとしている、大惨事の規模を理解するためには、黙示録15,16,17章を読んでください。信じている者は誰一人として、直面するべきではありません。私たちはそれに定められていないことを、神に感謝します。私たちは神の御怒りに定められていない（第一テサロニケ5:9）だけでなく、——聖書には、神が私たちを「そこから」、「~の外に」——全世界に来ようとしている試練の時「から」取り去ってくださる（黙示録3:10）のです。ですから、皆さんに強くお勧めします。私たちは、もうゴール目前です。聖書には、私たちは競争を走っている（第一コリント9:24、第二テモテ2:5）と書かれています。そして、常に祝福された希望（テトス2:13）を念頭に置いて、この祝福された希望をもって、互いに励まし合うように（第一テサロニケ5:11）と、命じられています。そして、この世のものではなく、私たちの信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離すな（ヘブル12:2）とも書かれています。世は、私たちの邪魔をしようとしています。それは、世で起こっていることに目を向けさせ、——私はミデヤン人と呼んでいますが——メディアを使って、混乱、分断、欺きをもたらすのです。また、ソーシャルメディアをつかって、おびただしいほどの間違った情報や、陰謀論をまき散らします。そのため、クリスチャンたちは今、問題でもない事を巡って大きく分断され、備えが出来ていません。それだけではなく、クリスチャンたちがワクワクしていないのです。私は世界中で、ワクワクしていないクリスチャンたちや、慰められていないクリスチャンたちに出会います。彼らは、今にもパニック発作を起こしそうです。皆さん。これらのしるしを見る事、また、月や星や、そういったものに注目するのはやめましょう。オリブ山での美しい垂訓で、イエスが言われた、まさにその通りの事が、世界中で起こっているのを見てください。マタイ24章、ルカ21章、両方に書かれています。主は、こういった自然災害を、終わりの時の兆候として告げられたのです。そして、テサロニケ人への手紙第一、第二両方や、他の書でも、恐ろしいことが起こる、と私たちには伝えられています。しかし同時に、私たちに約束されたことについても告げられています。そして、これらの言葉をもって、互いに励まし合いなさい、と聖書には書いてあります。

18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

（第一テサロニケ4:18）

私は、ただ陰気臭い、落ち込むメッセージばかりを伝えているのではありません。私たちはしっかりと鏡を置いて、世がどういう状態になって来ているかを見ています。しかし、私たちは、私たちにある、

祝福された希望にフォーカスするのです。それは、すぐにも主が来られる事です。初めに主は、彼の花嫁を連れ去るために来られます。そしてもちろん、患難の後に、私たちは主とともに戻って来るのです。イスラエルの人たちに関しては、エゼキエル 39 章をよく読んでみてください。そうすれば、その時の戦いにおいて、神が敵を破って、イスラエルの人々に約束されている驚くべき勝利が分かるでしょう。それは神が、イスラエルの人々の霊的領域に対処されるご計画の一部です。「その時、あなたがたは、わたしが神であることを知る（エゼキエル 39:22）」と神は言われます。国家としてのイスラエルの最大の戦争は、独立国家としての、全戦争の母——それはロシア、イラン、トルコ、その他によるエゼキエル 38, 39 章に書かれている侵略戦争です。これまでに私たちが戦ってきた戦争など、比べものになりません。1948 年、私たちは侵略されました。けれども、ロシアのような大国ではありませんでした。それから、1956 年はエジプト、1967 年はエジプトとシリアだけ、そして、1973 年です。ということで、1948 年、1956 年、1967 年、1973 年とありましたが、これらは常に「第一の層」と私は呼んでいますが、私たちの周辺国家です。そして、主が私たちに勝利を与えてくださったのです。それは、物凄い事でした。それでも、これから起こるエゼキエル戦争に比べられるものは、何もありません。つまり、大国としてのロシア、そして、核大国としてのイラン、巨大国としてのトルコ、そしてスーダンとリビアという、二つの混乱した国々です。何より、イスラエルが陥る大惨事です。どんなイスラエル軍も、どんなイスラエルの計画も、この戦争の勝利には一切役に立ちません。だから、エゼキエル 39 章に書かれている通り、この戦争での勝利は疑う余地がなく、神が与える勝利となるのです。これによってユダヤ人は、神がそこにいて、彼らを守っておられ、馬や戦車に頼るべきではないという事を理解するのです。問題は、その戦争の直後に始まるのです。この戦争で、誰もが疲弊しますから。そして、この戦争の直後に何が起こるかと言えば、平和がもたらされるのです。その平和は、ヨーロッパ人によってもたらされると、私は思っています。さらに私が心から信じているのは、その平和には二つの要素が含まれていて、それは、世界中のユダヤ人一人一人が祈っている事です。ユダヤ人には 3 つの願いがあります。これはユダヤ文化や伝統、ユダヤ教の中にまで深く刻まれている事で、彼らは

- ① メシアの到来を祈っています。
- ② そして神殿の再建、
- ③ 死からのよみがえり。

また、彼らは、3 つの内の 2 つがかなえば良いと思っています。ですから、誰かがメシアだと言って現れ、平和をもたらす神殿の再建を許可すれば、彼らが騙されるにはそれで十分です。昨日、私が神殿について説教していると、興味深い啓示を受けたのです。今まで、考えもしなかった事です。私が話している最中に、主がそれを明かされたのです。それを皆さんにもシェアします。

イエスの時代のイスラエルにとって、最大のつまずきの一つは、——事実、彼らは主イエスの神性、受肉した神であることを、絶対に受け入れませんでした。彼らは、ピラトの前で、イエスをメシアとして訴えませんでした。

「私たちのメシアだと言ったことで、訴えよう！」

とは言いませんでした。実際、彼らは主をメシアとして受け入れていたのです。ただ、彼が自分を神としなければ。しかし、イエスがご自身を神と等しくされた事、メシアはタダの人間ではなく、受肉した神である、とイエスが言われた事、

神のことばが人となって、私たちの間に住まわれた（ヨハネ 1:14）。

これが、彼らのつまずきとなったのです。

「それはデタラメだ！」

「それは神への冒瀆だ！」

と言って、彼らはイエスを訴えたのです。面白いと思いませんか？彼らがイエスを訴えたこれらの事が、将来、大きな役割をなすのです。何故でしょう？反キリストは、メシアとして登場します。しかし、ある時点で、——聖書にはダニエル書9章、第二テサロニケ2章に書かれていますが——その「メシア」はエルサレムの神殿に入り、自分を神として拝むように命じるのです。ユダヤ人は、メシアを神とは思っていないという事を、念頭に置いてください。そしてここで再び大きく試される時が、大きな試練として訪れるのです。患難を「試練の時」と呼ぶ理由、私たちはまた、それを「ヤコブの苦難の時」とも呼びます。それは、その時からイスラエルの苦難が始まるからです。彼らが、反キリストを神とすることを拒否した時、反キリストは彼らを、ヒトラーもしなかつたような方法で迫害し始めます。最終的には、ゼカリヤ書13章に書かれている通り、イスラエルの三分の二が滅び、三分の一だけが患難時代を生き延びるのです。2,000年前に、彼らがメシアを拒絶したのと同じことで、近い将来、彼らは反キリストを神とすることを拒絶するとは、とても興味深いです。考えてみてください。もし、彼らが反キリストを受け入れ、獣のしるしを受け入れ、彼のやり方に従うのなら、どうしてヤコブの苦難の時を、「ヤコブの苦難の時」と呼ぶのか？全ての患難は、拒絶に関連して起こるのです。皆が黙示録12章について語っていますが、——黙示録12章は、敵が、子どもを産んだ女を追いかける様子が描写されています。その女とは、イスラエルの事だと私は思っています。イスラエルはメシアを生み出しましたから。そして、敵はいつか女を滅ぼしたいのです。つまり、イスラエルの事です。イスラエルは、神や、神の御子イエスを嫌う者たちから、常に攻撃を受けてきました。

それだけではなく、皆さんは理解しておいてください。ユダヤ人が反キリストを拒絶することを、イエスは褒められるのです。イザヤ63章で、イエスは血に染まった白い衣を着て、白い馬に乗って来られます。そして主は、彼らをボツラから連れ出されます。ユダヤ人が逃げ込む、ペトラ（ヨルダン）のある地域です。物凄いことが起ころうとしているのです。私たちが、現在終わりの終わりに差し掛かっていることは、感覚でも分かるし、肌でも感じられるし、目にも見え、また、その匂いもします。私たちは、競争を走っているのです。もう終点が見えて来た、とは、素晴らしいと思いませんか？「ゴール間近」という標識が見えて来たのです。まだ、立ち止まる時ではありません。私はいつも、クリスチャンとしての生活を、下りのエスカレーターを上って行く様子に例えますが、絶対に止まることは出来ません。もし下りのエスカレーターで止まったら、どうなりますか？あなたも下ります。しかし、あなたが継続して粘り強く、忍耐強く競争を走るなら。もし躓いて倒れたら、立ち上がって、また走れば良いのです。後の事は忘れて、私たちの前にあるものに目を留める。これが、私たちのすべき事です。私たちが倒れた瞬間に、敵は「お前はもうダメだ」と言ってきます。

「お前は失敗したんだ。」

「下でずっとウロウロしてろ。そこがお前にはお似合いだ。」

と。しかし主は、私たちが立ち上がって、塵を振り払うことを願っておられます。聖書のヘブル人への手紙12章には、こうあります。

1 …私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競争を忍耐

をもって走り続けようではありませんか。

2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。

(ヘブル 12:1~2)

皆さん、どうぞ元気を出してください。現在、世界中で起こっている全ての自然災害や大惨事、私たちが耳にしている世界各地の戦争、戦争のうわさ、北朝鮮について、ロシアについて、イランについて。イスラエルでは、過去 20 年間で最大の軍事演習が、今こうして話している間にも行われています。私たちは体をまっすぐにして、頭を上を上げなければなりません。私たちの贖いが、確実に近づいているからです (ルカ 21:28)。

ということで、少し、皆さんを励ましたいと思いました。私は今日、イスラエルに到着、自宅に戻りますが、現在はロンドンのヒースロー空港にいます。次は、9月のイスラエルバイブルスタディツアーです。もし、一度も参加された事のない方は、2018年にも行いますので、ぜひご参加ください。ツアーの間、それぞれの場所で、私が聖書を教えます。もちろん、聖書預言には、特に注目して見て行きます。その後、私はヨーロッパに向かいます。どこに行くのかはお伝えしませんが、恐らくそこが反キリストの本部になるであろうと、私が考える所へ向かいます。その目的は、10月7日にミネソタでお話するメッセージ——「ヨーロッパ——さらにどれほど反キリストの興りに近づいているか」を、そこを訪れて結論付け、仕上げる予定です。それからまた、イスラエルに戻って、ラッパの祭りを祝います。イスラエルで家族と過ごして、毎年恒例の教会のリトリートに参加します。その直後にアメリカに向かい、キューバに行きます。だから私は、ハリケーン・イルマが破壊しないように祈っているのです。それからフロリダに向かい、キューバ、そしてニューヨークシティー、それからミネソタに行って、バージニア州リンチバーグでは、リバティー大学で講演します。それから自宅に戻って、次のツアーを引率します。

皆さん、お祈りをありがとうございます。皆さんのご支援にも感謝します。皆さんがこのミニストリーに忠実であられる事、また、ご献金にも感謝します。おかげさまで、ミニストリーが広がって、日本語のユーチューブチャンネルが出来ました。私のメッセージは、DVDとなる教会での講演だけでなく、毎週のアップデートも日本語に翻訳されていますので、日本語を話す人々にもご視聴いただけるようになりました。日本は人口一億人ですが、クリスチャンがとても少ないのです。ですから、私たちは日本人に照準を合わせています。また、スペイン語のユーチューブチャンネルも、今、制作中です。さらに現在、私の全メッセージを、他の言語にも翻訳しています。この目的のために、数名の方よりたくさんの献金をいただき、感謝しています。それから、来年もまたヤングアダルトツアーを計画しています。ヤングアダルトツアーへの出資を希望される方は、どうぞご連絡ください。ツアーコーディネーターの Donalee に Eメールで資金提供をしたい旨をお伝えください。 donalee@beholdisrael.org

もしくは、ご自分のお子さんやお孫さんに参加させたいと思われる場合は、18歳以上、そして本人が希望していることが条件です。誰に対しても、参加強制は出来ません。献金をご希望される場合は、どうぞご連絡ください。40人の若者の内10人の費用を、私たちが負担する予定です。経済的に困難な若者が対象です。神が与えてくだされば、10人以上に提供することになるでしょう。私たちはこのツアーで、儲けを出すつもりはないのですから。このツアーを通して、儲けを出すのではなく、若者たちの人

生に違いをもたらしたいのです。若者たちの信仰を強め、情熱を燃え立たせ、城壁の見張り人として、人々に伝えたいと思う意欲をもって、それぞれの国に送り返すことを願っています。もし、あなたの中にその思いがあるのでしたら、ぜひご連絡ください。

ということで、ロンドンより、ありがとうございます。God bless you!

予告なしのメッセージでしたが、緊急に皆さんに伝える必要を感じたので、カメラも、背景も、音声は特にマイクもつけていませんから、ベストな状態ではありませんでしたが、大切なのは、内容です。ロンドンより、ありがとうございます。あと数時間でイスラエルに戻ります。しっかりと信仰を保ってください。祈りましょう。

お父様、ありがとうございます。あなたは全てのことを支配しておられます。お父様、ありがとうございます。あなたは、私たちにしるしを通して警告を与えてくださり、終わりが近づくにつれ、全被造物が呻くと言われました。また、産みの苦しみが、間もなく何か生まれることを告げています。陣痛がどんどん頻度を増し、痛みを増しているのを、私たちは今、見ています。お父様、ありがとうございます。主がすぐにでも戻って来られ、私たち花嫁を連れて行ってくださるという素晴らしい約束と、素晴らしい希望を私たちは握りしめます。そして、御霊も、花嫁も言います。「来てください。」ロンドンからも、あなたに感謝し、あなたを祝福します。どうか、あなたが私たち全員の中で、創始された素晴らしい御業を完成させてください。私たちが城壁の見張り人として、立派に働けるようにしてください。ただ見て、理解するだけでなく、人々に警告を与える事が出来ますように。今はまだ、間に合います。しかし、明日は手遅れかも知れません。あなたに感謝し、あなたを祝福します。イエスの御名によって。アーメン。

では、皆さん全員の上に、アロンの祝福を宣言したいと思います。

ウェイシエメレハー

アドナーイ

イエヴァーレフハー

וְיִשְׁמְרֶךָ

יְהוָה

יְבָרְכֶךָ

..(主が)あなたを守られますように

主が

あなたを祝福し

ヴィーフネツカー

エーレーハー

パーナーヴ

アドナーイ

ヤーエール

וְיִתְנֶךָ

אֵלֶיךָ

פְּנֵי

יְהוָה

יָאֵר

..(主が)あなたを恵まれますように

あなたに(向けて) 御顔を

主が

照らし

シャーローム レハー

ヴェヤーセーム

エーレーハー

パーナーヴ アドナーイ

イッサー

שְׁלוֹם לְךָ

וְיִשֶׁם

אֵלֶיךָ

פְּנֵי יְהוָה

יִשָּׂא

平安を

あなたに (主が)賜るように

あなたに(向けて) 御顔を

主が

上げて

(引用：牧師の書齋 <http://meigata-bokushin.secret.jp/>)

24 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。

25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

(民数記 6:24~26)

シャローム、世が与えることも、理解すら出来ない平安、人間のすべての理解を遥かに超える平安、平和の君が心に住まれて初めて、私たちに理解することの出来る平安です。どうか、皆さん全員が、平和の君を心に招かれますように。世の中は、これから悪化する一方です。どんどん悪くなります。大惨事がさらに起こります。被造物が呻いています。しかし、私たちには祝福された約束、祝福された希望があります。ありがとうございます。イスラエルに帰る途中のロンドンより、皆さんに感謝します。
Shalom! God bless you all!

このメッセージは BEHOLD ISRAEL のイスラエル在住メシアニックジューAmir Tsarfati 氏が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、BEHOLD ISRAEL (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by MIHO